

草原維持管理支援組織の形成および草の需要創出に関する検討（要約）

1. 草原維持管理支援組織の形成に関する検討（要約）

（1）ボランティア参加意向調査（アンケート調査）

畜産農家の減少や高齢化の進展に伴い顕著化している日常的な牧野管理作業の担い手不足に対応するため、野焼き・輪地切りボランティア活動をはじめとする牧野管理作業を支援するボランティア活動への参加意向について、ボランティア経験者、環境関係NPO、大学生を中心にアンケート調査を実施した。

調査方法

- ・ 平成16年2月～3月に実施
- ・ 調査対象は下記に郵送にて配布・回収
 - ・ 野焼き・輪地切りボランティア
 - ・ 野焼きボランティア講習会参加者
 - ・ 熊本（福岡）地区の環境NPO
 - ・ 熊本（福岡）地区の環境関連の大学学部
 - ・ 野焼きボランティア周辺の方

回収状況

- ・ 662サンプル

設問内容

- ・ 阿蘇の草原維持およびその状況に対する認識
- ・ 野焼き・輪地切りボランティア活動の認知度
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアへの参加経験
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアの感想・意見
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアへ参加しない理由
- ・ 野焼き、輪地切りのみならず日常の牧野管理作業への参加意向
- ・ ボランティア活動への参加希望時期、参加への条件
- ・ ボランティア総合窓口の設置への意見
- ・ ボランティア活動を通じた阿蘇地域の人々との交流意向

まとめ

- ・ 普及啓発 / 広報活動の必要性

都市側も牧野側もボランティアについての認知度はそれほど高くなく、おおむねどちらも約半数程度が認知している程度である。今後、ボランティアによる草原維持活動への理解をより一層求めていく必要があると考えられる。

また、ボランティア活動への参加意向をもち、これまで活動に参加しなかった層は、その半数が参加方法がわからなかったとしている。とくに今回の今回のアンケートを通じてボランティア活動の存在を知った学生層は、その4割がボランティア活動に参加したいという意向をもつ。これらの層の掘り起こしに向けて、より積極的に広報活動を展開していくことが必要である。

- ・ ボランティアとして参加したいとする作業と牧野側が手伝いを必要とする作業には、若干のズレがある。まずは牧野側の支援要請をもとにボランティア参加を促していくことが基本的なスタンスとして考えられる。

表 牧野およびボランティア側が希望する草原維持管理活動

牧野	作業内容	ボランティア	作業内容
1	野焼き（51%）	1	野焼き（74%）
2	輪地切り（46%）	2	輪地切り（43%）
3	牧柵設置・補修（37%）	3	採草作業（31%）
4	管理道の補修（25%）	4	ボランティア作業支援（26%）
5	雑草駆除（22%）	5	モーター輪地の管理（21%）

(2) 草原維持活動実証予備試験

野焼き・輪地切り以外の作業のボランティアによる草原維持活動支援として「電気牧柵の設置」、「鉄条網の補修」を行い、作業効率等の検証を行った。

【報告】阿蘇の草原維持支援活動 実証予備試験実施
「こんな企画は是非続けてほしい」

阿蘇郡の小堀牧野で環境省主催の草原維持管理支援活動の実証予備実験が行われました！！

平成 16 年 3 月 17 日（水）はお天気にも恵まれ、平日にも関わらず 17 名のボランティアの皆さんにお集まりいただきました。

これは現在行われている野焼き・輪地きりの支援に限らず、阿蘇の草原維持に大きな役割を果たしている農畜産業そのものを様々な人々の協力を得て支援していこうという試験的な試みでした。



野焼き後の草原で朝 10 時から午後 3 時ごろまで、小堀牧野の田島組合長をはじめとする 13 名の組合員の皆様と、（株）末松電子製作所の 2 名のご協力をいただき、鉄条網の修繕と電気牧柵の設置*を行いました。



作業は 3 つのチーム（ボランティアチーム 2 つ、牧野組合員チーム 1 つ）に分かれて行い、ボランティアチームは電気牧柵設置と鉄条網の修繕を行いました。牧野組合員のチームは、急斜面などのボランティアには作業が難しい場所で鉄条網の設置を行いました。



一日の作業で電気牧柵 1,400m、鉄条網の修理 1,265mを達成できました。

* この 2 つの作業は、草原の維持に参加可能と思われる都市の方々と、牧野組合長を対象に行われたアンケートの結果から、双方の希望が高かったものを、この日の作業内容として決定しました。

作業後の意見交換会 & アンケート結果より

組合員



作業後に行われた意見交換会で、今回の試験を受け入れてくださった牧野組合長は

「予想以上に作業が進んで感心している。ボランティアの皆さんは研究熱心で、大変な作業も楽しんでやってくれる」

「牛が好きだが人手が足りないことから牛を飼うのを諦める人もいる。ボランティアの皆さんの協力を是非お願いしたい」とおっしゃっていました。

ボランティア



- 「牧野・自然そして人との交流が深まる。こんな企画は是非続けてほしい」
- 「この作業をするまでは牧野は観る対象でしかなかったけれど、自然・牛・人とのつながりをしっかり捕らえることができました。」
- 「今後も草原を守るため広く一般の人にも声をかけてください」
- 「ボランティアにはわかりやすい単純な作業の方が良かった」
- 「単純作業で役に立つならいつでも声をかけてほしい」
- 「学校では学べないことが学べた」



作業後に実施したアンケートから、電気牧柵は何もないところに設置していくが、鉄条網はもともとあるものを修繕するため作業がやりやすいなど、ボランティアの作業としては鉄条網の修繕のほうが適当かと思われる意見もありました。

初めての試みで一部道具不足等の問題もありましたが、皆様の工夫のおかげで怪我もなく無事に作業を終了することができました。組合の皆様、ボランティアの皆様、本当にお疲れ様でした。また、牧野組合で人手が足りない作業として、皆様の工夫のおかげで怪我もなく無事に作業を終了することができました。組合の皆様、ボランティアの皆様、本当にお疲れ様でした。組合長のお言葉を借りれば「生産者と消費者が一体となって」阿蘇の草原を守り交流することで、お互いが新しい可能性を発見できる場となっていこう、今後ともご協力をよろしく願いいたし

(3) 草原維持管理支援組織の形成に向けて

普及啓発事業の強化

- ・ 牧野へのボランティア活動の成果の普及啓発
- ・ 学生をはじめ一般層への普及啓発事業の強化

既存組織の拡充と発展

多様な団体との連携

- ・ 学校との連携（大学との連携 / 環境教育の実施）
- ・ 環境NPOの参加の機会の提供

牧野側のニーズと参加者側の都合・意向のマッチング

パイロット的な取り組みから

2. 草の需要創出に関する検討（要約）

（1）草の需給状況調査（ヒアリング調査）

阿蘇の野草がどのように流通・利用しているかを調べるため、供給側、需要側へのヒアリング調査を実施した。

ヒアリング対象先

- ・ 供給側：跡ヶ瀬牧野、J A 阿蘇、J A 菊池
- ・ 需要側：高森堆肥センター、カドリードミニオン、茅葺師

ヒアリングのまとめ

- ・ 阿蘇の野草は、主に家畜の粗飼料・敷料、堆肥用として個々に流通している。
- ・ その他の草の需要については、動物園（ペットショップ含む）や茅葺屋根などでわずかな需要が見込めるものの、大きな広がりには期待できない。茅葺屋根の活用などは地域の伝統的景観の保全のために社会的に重要なことであるが、より本質的な需要（農業利用等）を喚起する必要がある。
- ・ 菊池地域では、以前は阿蘇の野草を多く利用していた実態があり、阿蘇の野草の品質を再度的確に伝えることができれば、大きな需要が喚起できると考えられる。また、同様のことが阿蘇地域内での消費についてもいえよう。
- ・ 草の需要を促進するためには、採算性の問題、つまりは人手とコストの問題を解消することが必要とされる。現在、野草の流通価格は30円/kg程度であり、その価格の妥当性やコストの削減方法等について検討する余地がある。

（2）草の需給状況調査（アンケート調査）

阿蘇郡及びその周辺地域の農家を対象に、現在どのように草資源（主に野草）が流通、利用されているかを把握するため、アンケート調査を実施した。

調査方法

- ・ 調査時期：平成16年2月～3月
- ・ 調査対象：J A 阿蘇、J A 菊池
J A 阿蘇の粗飼料生産組合に加入している農家
J A 菊池の酪農農家、肥育農家

回収状況

- ・ サンプル数：63（うちJ A 菊池関係9）

主な設問内容

- ・ 野草の利用状況について
- ・ 野草の好ましい品質について
- ・ 野草を利用したい理由
- ・ 野草を利用したくない理由
- ・ 野草利用の促進方法について
- ・ 牧草の利用状況について
- ・ 稲わらの利用状況について
- ・ バイオマスについて

まとめ（結果概要）

- ・ 野草の用途としては、粗飼料が最も多いが、堆肥や敷料にもある程度利用され、当然のことながら牧草と比べるとその用途は多様である。
- ・ 野草の粗飼料としての利用条件としては、「良く乾燥している」、「雨に当たっていない」、「栄養価が高い」などであり、少なくとも粗飼料として利用するには品質に関して問題

意識が高く、価格についてはそれほど問題でないようである。ただし、堆肥、敷料利用については、価格の安さが選択条件となるようである。

- ・ 野草を現在利用していない農家のうち約 4 割強がかつては野草を利用していたことがあり、再度野草に対する安心感を与えることができれば需要が再創出されると考えられる。一方、これまで全く野草を利用したことが無い農家も 4 割弱あり、野草の効用をきちんと伝えることができれば、需要を喚起する余地は十分あるといえる。
- ・ 現在野草を利用している、あるいは利用を希望している農家の野草に対する評価は、「粗飼料として優れているから」、「牛の健康によい」という声が多いことが挙げられる。実際、野草の中に含まれる薬草（ハーブ）の種類は多く、これらが牛の健康にプラスに働いているとも言われている。
- ・ 野草の利用をしていない理由として、入手が面倒とする回答が多く、「JA 調査でも明らかになったように、流通手段がきちんと整備されていないことも野草の利用量を多くできない理由となっているようである。
- ・ 野草の利用促進について最も回答が多かったのは、「野草の利用が阿蘇の草原保護につながるという認識を高めること」である。このことから野草利用による阿蘇の草原保護への貢献について、より一層普及啓発をしていくことが求められていると考えられる。

（３）今後の展開に向けて

阿蘇の野草は、以前は多くの農家で家畜の粗飼料、敷料、良質な堆肥として一般的に利用されてきたが、過去にダニ混在の問題等でその需要が減少してしまった。しかしながら、牧野組合調査においても現在の野草の品質に対する評価は高く、また、野草を利用していないと回答した農家の約半分は以前野草を利用していたと回答しており、条件が整いさえすれば域内の需要は再創出できると考えられる。

従来の利用方法による需要の喚起 / 普及啓発の強化
（粗飼料・堆肥・敷料）
需給のマッチング機能の確保
採草（草刈り）支援ボランティア活動の実施
未利用野草地の活用